

「荒野で何を見るか」

(詩篇63篇)

牧師：原 雅幸

序) 環境の影響力

- ・私たちは目に見える風景と心の中がシンクロしやすい存在である。
- ・神に出会うために場を整えることは重要だが、それは「快適で、心地よい場」であるとは限らない。祝福が神ご自身を遠ざける可能性がある。

1) 荒野で神と出会う～詩篇 63 篇の道～

- ・詩篇 63 篇は神と最も親しい結びつきを経験した詩人の歌と言われるが、彼がいたところは「荒野 (水の無い 衰え果てた 渴いた地)」であった。
- ・「荒野」は人間の努力や蓄えが役に立たない「無力化された場」の象徴。
- ・「荒野」は人間の背きゆえに出現した不本意なもの。しかし恵みの神は、良いものをこの世界に残してくださった。しかし人間は恵みを当然と思いつき込み、荒野が異常だと錯覚してしまう。
- ・神はこの不本意な現実さえ用いて、私たちに会ってくださる。

2) 荒野を経験する前の備え

- ・「私の神 (1 節)」「私の助け (7 節)」との呼びかけから、この詩人が荒野を経験する前から神を知り、礼拝していたことがわかる。知識 0、信頼 0 では神を見出すのは至難。しかし少しでもあるならば、荒野は劇的に神に人を近づけるきっかけとなる。
- ・「困った時の神頼み」は望ましくないかもしれないが、これができるか否かは、平常時の信仰の養いにある。



3) 荒野で賛美にあふれるために

- ・2 節「見る (明らかにする)」と「仰ぎ見る (思い起こしてイメージする)」
- ・「こうして聖所で」肉の目には荒野であっても、神の力と栄光を思い起こし、思い巡らすなら、そこは神が臨まれる「聖所」に変わる。
- ・「脂肪と髓」が一番おいしいごちそうを指す表現
- ・神の恵みの大きさに目が開かれるとき、自分のいのちに関わる事柄よりももっと大きなことがあるとわかると、心の手は開かれる。



結) 握り拳は祈りに変わる

- ・いのちをつけ狙われて荒野に追いやられた詩人だったが、敵の未来は主の手に預け、自分が見るべきものに集中した。
- ・私たちは荒野で何を、どこを、誰を見るのか。

名前(\_\_\_\_\_)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 神様から心が離れてしまった人間は、どこにいるのが当たり前でしょうか。

② あなたの生活が、荒野のようでないとしたら、それはなぜでしょうか。

- ( ) 自分が罪のない、いい人間だから
- ( ) 自分の家族が、がんばってくれているから
- ( ) 神様から良いものが豊かに与えられているから
- ( ) たまたま、ぐうぜん。理由はない。
- ( ) その他\_\_\_\_\_



◆お話を聞いた後で、考えましょう。

\* あなたは、「私の神さま」と呼びかけて祈りますか。祈れますか。

\* 神様が、あなたのパートナー(相棒)だとしたら、どんなふうに生きることが出来ますか。

みんなで一週間考えてみよう!

～教会クイズ (教理問答) ～

Q019 「天と地の創造主」を信じるとは、どういうことですか。

A019 [ ] に [ ] [ ] [ ] [ ] ものも、 [ ] [ ] ないものも

[ ] [ ] [ ] が神さまによって造られ、その [ ] [ ] [ ] のものが神さまのものであると信じることです。

□ヒント□ 創世記 1:1、イザヤ 40:27-31、詩篇 8:2-10、詩篇 95:1-7、使徒 17:23-25、コロサイ 1:16